

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・国語〉

特別研修員 国語 橋 友代（小学校教諭）

単元名 登場人物の気持ちを場面の移り変わりと結び付けて想像しよう「一つの花」（第4学年）全8時間計画 単元のねらい

登場人物の言動と場面の移り変わりを結び付けて読むことを通して、登場人物の気持ちを想像することができるようにする。

単元構想の意図

本単元では、場面や情景の移り変わりや登場人物の言動を結び付けて読むと、登場人物の性格や心情をより想像しやすくなることを知り、他の物語文でもそれを活用できる力を身に付けることを目指します。つかむ過程では、児童のよく知る物語を用いてモデル文を作成し、興味をもって主体的に学習に向き合えるよう工夫します。追究する過程では、児童一人一人が多様な考え方を知り思考を深められるよう、観点を明確にした意図的な交流の時間を設けます。まとめる過程では、図書館にある物語の本を用いて学びを実感させ、教材にとらわれず、ほかの場面でも生かせることに気付かせるよう構成しました。

過程	<p style="text-align: center;">主な学習活動</p> <p>1. 単元の課題を把握する</p> <p>○モデル文に出会い、単元の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>作者は、なぜ「一つの花」という題名にしたのか、作者の思いを読み取るう。</p> </div> <p>○既習事項を基に、学習の見通しをもつ。</p>	<p style="text-align: center;">主体的な学習のための適切な言語活動</p> <p>児童の関心が高まり主体的に活動できるような、魅力的な課題を設定するために、児童の実態を把握し、身近な題材や既習の物語文を活用してモデル文を作成する。</p> <p style="text-align: center;">学習のつながりと意欲につながる見通し</p> <p>既習の単元を想起させたり、既習事項を児童から出させたりすることで、学びのつながりを感じさせる。また、既習事項だけでは課題が解決できないことに気付かせ、既習の技能を組み合わせたり、新たな視点を考えさせたりする活動を大切にすることで、課題解決に向けて見通しをもたせ意欲を高める。</p>
つかむ(1)	<p>2. 課題を追究する</p> <p>○戦中や戦後の場面の移り変わりと言葉に着目して、変わったこと・変わらなかったことを比べる活動を行い、作品の背景を捉える。</p> <div style="text-align: center;">  <p>【教室内掲示物例】</p> </div> <p>○登場人物の言動に着目して、その意味を叙述に沿って考える活動を通して、家族の思いやこれからの時代への願いを捉える。</p> <div style="text-align: center;">  <p>【自由に教室内で交流する場面】</p> </div> <p>○戦後の場面において、お父さんの存在（象徴）を表す言葉を探す活動を通して、お父さんの残した思いを捉える。</p> <div style="text-align: center;">  <p>【二人で一つの資料を活用する場面】</p> </div>	<p style="text-align: center;">叙述に即した読み</p> <p>本時の活動に入る前に、前時のノートやプリント、壁面の掲示物等を見直しながら、学習過程を確認することで、児童が個で考える助けになるようにする。 答えや考えの根拠となる叙述に線を引かせたり、抜き出させたりする活動を多く取り入れ、本文から離れず、叙述を関係付けて考える文学的文章の読み方の基本を身に付けさせる。 交流場面では、答えや考えの違いだけでなく、その根拠の違いを叙述から確認し合うことで、他の叙述との関連を考えたり、一部ではなく文章全体を捉えたりできるようにする。</p> <p style="text-align: center;">対話的な学びへの効果的な交流活動</p> <p>多様な考えを知り思考を深められるように、交流するグループを限定せず、学級内で自由に交流をさせるとともに、交流の前に、答えや考えの根拠となる叙述を提示する等、明確に視点を与えることで、意味のある交流ができるようにする。 交流を通して知った新たな考え方や感じ方を、自分の言葉でまとめ直す活動を通して、学習の定着や深まりを実感させたり、次の学習への意欲につなげたりする。 教材以外の資料を活用する際には、始めからペアやグループで一つの資料の読み取りを行わせるなど、学習形態を工夫することで、自然な交流を通して思考を深められるようにする。</p>
追究する(5)	<p>3. 単元を振り返る</p> <p>○学習全体を振り返り、単元の課題に対して自分の考えをもつ。</p> <p>○単元で学習したことを振り返りそれをほかの物語文で生かせることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・物語文を読むとき、場面の移り変わりに気を付けて読むと、登場人物の気持ちの変化に気が付きやすいことが分かりました。図書館の違う本でも、挑戦してみたいです。</p> </div> <p style="text-align: center;">【児童の振り返り一部抜粋】</p>	<p style="text-align: center;">学びの自覚とつながり</p> <p>単元で学んだ「場面の移り変わりに登場人物の言動を関連付けて読むと、登場人物の性格や心情がより想像しやすくなること」を生かして、物語文（絵本）を読む活動を通して、具体的に身近な生活場面での技能の活用をイメージさせ、学びの広がりを実感させる。 学習過程を想起させ、本単元で「何を学んだか」「何ができるようになったのか」「どのようにしてできるようになったのか」、日常のどのような場面で活用できるかについて、全体で共有させた後に、自分の言葉でまとめることで、学習の前後の変容を自覚させるとともに、次の学びの意欲につなげる。</p>
まとめる(2)		

指導例：『一つの花』（第4学年 第1時）

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。

○既習の単元を想起し、学習のつながりを感じる。

T：今までにどのような物語文を勉強しましたか？

S：「三年とうげ」「スイミー」「白いぼうし」

○場面の移り変わりを考えながら、登場人物の心情を読む学習をすることを教える。

単元の課題 作者は、なぜ「一つの花」という題名にしたのか、作者の思いを読み取ろう。

○モデルを示し、言語活動のイメージをもつ。

S：あ！「白いぼうし」だ。

T：モデル文を読んで課題のイメージがもてましたか？

S：うん！分かる！
やってみよう！

【モデル文例】
私は、「白いぼうし」という題名には、作者の「やさしさ」がこめられていると思えました。なぜなら、登場人物の松井さんの言動は、いつもだれかを思いやるやさしさにあふれているし、白という色も、やさしい色だと思ったからです。
「白いぼうし」
光村図書出版四年上より

2 本時のめあてをつかむ。

めあて 単元の課題を解決するために、これからどのようなことに着目して読み進めていくとよいか考えよう。

3 学習の見通しをもつ。

○既習事項を基に、学習計画を立てる。

T：物語文でどのようなことを学習しましたか？

S：登場人物・登場人物の気持ち・場面。

T：作者の思いは、何に着目すると想像できそうですか？

S：登場人物の気持ちかな。

T：登場人物の気持ちは書いてありますか？

S：あれ…書いてないかも。じゃあ、想像する！

S：登場人物のセリフとか？行動とかから想像するのはどうかな？

S：場面が大きく変わっているから、それも関係するかも。

S：きっと、組み合わせるんだよ。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○板書を見て、自分の考えをノートにまとめる。

○全体で共有する。

T：課題を解決するために、どのようなことに着目して読めばよいか、板書を見ながら考えをまとめてみよう。

まとめ 課題を解決するために、場面の移り変わりや登場人物の言葉や行動に着目して、登場人物の気持ちを想像する。

☆ 作者の思いを想像するのは初めてで難しそうだけれど、どのような思いがあるのか見つけるのが楽しみ。

指導のポイント

学習のつながりを意識させる手立て①

○学習のつながりを意識させるために、下学年の教科書を提示し、既習単元を想起させる。その際、物語文と説明文が混在しないように注意する。

主体的な学習のための適切な言語活動の提示

○具体的なモデルを示すなどして、目指すゴールの姿や単元を通して身に付ける力をイメージしやすくさせる。
○既習の物語単元を活用してモデル文を作成すると、児童の関心がより高まる。

学習のつながりを意識させる手立て②

○既習事項を児童から出させ、学習のつながりを意識させるとともに、次の学習活動に生かせることを確認させる。
○学習用語の確認にならないように注意する。

意欲につながる見通し

○自分たちで手立てを考え、全体で共有することで、課題解決に向けて見通しをもたせ意欲を高める。
○既習事項だけでは、解決できないことを知り、既習事項を組み合わせたり、新たな視点を考えたりする活動を大切にさせる。

指導例：『一つの花』（第4学年 第6時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、学んだことや課題追究のための手立てを確認する。

T：前時にどのような活動をしましたか？

S：お父さんのセリフや行動に着目して、気持ちを想像した。今日は最後の場面のお父さんかな？
でも、お父さんはもういないよ。

めあて お父さんを表す言葉を探して、お父さんが残したものは何か、文中の表現から想像しよう。

意欲につながる見通し

○前時の学習をノートやプリントから振り返らせ、学習の積み重ねを意識させるとともに、本時に何をどのような手立てで解決すればよいかを明確にすることで、学習意欲を高める。

2 課題を追究するために個で考える。

○お父さんの残したものが具体的に何か考え、それに込められた思いを根拠を基に想像して書く。

T：考えの根拠になる文に線を引こう。

叙述に即した読みの工夫

○根拠となる文に線を引かせることで、本文から離れず叙述と関連付けて思いを想像させやすくする。

3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。

○考えに根拠があるか確認し、考えの根拠の違いはどこか意識しながら交流する。

S：お父さんは、コスモス。

S：お父さんが「一つだけあげよう。」と言って最後にゆみ子に渡したものだから。

S：お父さんは最後に何も言わずに「一つの花を見つめながら。」ってあるから。

S：コスモスは平和を表してる。戦争のときには、花は忘れられていたけれど、いっぱいになったから。

S：お母さんやゆみ子に、お父さんを忘れないでほしい気持ち。「一つだけのお花、大事にするんだようー。」って言うてるから。



【自由に交流活動する様子】



交流を通して多様な考えを知り思考を深める工夫

○交流するグループを限定せず、学級内で自由に交流活動することで、多様な考えを知り、思考を深められるようにする。
○自分の考えの根拠と、交流した友達の根拠が違うときには、互いにどの叙述を根拠にしたのか確認させることで、自分では気付かなかった根拠を知ったり、一つの場面だけでなく、文章全体から根拠を捉えたりすることができることに気付くようにする。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○友達との交流を通して学んだことを、自分の言葉でノートに付け足し、発言し全体で共有する。

まとめ コスモスはお父さんを表している。お父さんは、家族が平和に暮らしてほしいと願いを込めた。

☆お父さんはいないけれども、気持ちを読み取ることができた。
☆考えは一緒でも根拠が違う友達もいて、いろいろな考え方ができるんだなと思った。

習得した知識を確認し、次の学習へつなげる工夫

○友達との交流を通して知った、新たな考え方や感じ方を、自分の言葉でまとめ直すことで、学習の定着や深まりを実感させるとともに、次の学習への意欲を高める。

指導例：『一つの花』（第4学年 第8時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○単元全体の学習を振り返り、単元の課題を確認する。

めあて 単元で学習したことを、図書館にある本の読みに生かそう。

意欲につながる見通し

○今まで取り組んできた単元の課題について確認し、本時の学習を具体的にイメージさせる。

2 単元で学んだことを確認する。

○ノートや教室掲示を見返し、どのようなことに着目して読むと作品に込められた作者の思いを読み取れたのか、全体で共有する。

S：登場人物のセリフや行動に着目したり、場面の移り変わりに着目したりすると、登場人物の気持ちがより分かりやすくなった。

S：登場人物の気持ちを想像すると、作者の思いに気がやすくなった。

学びの自覚

○本単元で、「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どのようにしてできるようになったか」について、学習の前後の変容を自覚させる。

3 学んだことを一般化して理解する。

○「くまとやまねこ 作：湯本香樹実」を読み聞かせし、本単元で学んだことを生かして、「くまとやまねこ」に込められた作者の思いを全体で共有する。



S：題名には、変わらない「想い」が込められている。くまは、やまねここと出会う元気になったけれど、小鳥のことを忘れたわけではない。小鳥を埋める場面では、小鳥と別れたけれど、気持ちはつながったから。



【二人で一つの文章を使う様子】

S：やまねこのバイオリンを聞く場面がポイントで、「くまはみんな思い出しました」から、小鳥のことを忘れたわけじゃなくて、逆に思い出したんだと思う。「変わらない友情」が込められていると思う。



【全体で学びの確認をする様子】

T：くまややまねこの言動や場面の移り変わりに着目して、気持ちが読み取れた人は○を作って見せて。

学びを一般化するための手立て

○身に付けさせたい資質・能力を具体化する際、ペアで資料を活用することで、自然な交流を通して思考を深められるようにする。
○単元で学んだことを他の教材でどのように活用できるのか、具体的にイメージさせ、学びの広がりを実感させる。
○児童生徒に身に付けさせたかった資質や能力が身に付いているかどうか、児童生徒の発表やノートに表れている考え方から確認する。

4 単元全体の振り返りをする。

○全体で共有したことや、キーワードを使って、単元全体で学んだことを、自分なりの言葉でまとめる。

まとめ

- ・物語を読むときに、場面の移り変わりや登場人物の行動から気持ちを想像すると、より分かりやすくなる。
- ・違う物語でも同じ読み方ができる。

☆今度、物語の本を借りたときに、登場人物のセリフに着目して読んで、題名に込められた思いを考えてみたい。

学びのつながりを実感させる工夫

○単元全体で学んだことが、ほかに活用できることを再確認し、この先の学習活動や日常生活とのつながりを実感させ、次の学びの意欲につなげていく。

国語科学習指導案

平成30年6月 第4学年 指導者 橋 友代

I 単元名 登場人物の気持ちを場面の移り変わりと結び付けて想像しよう「一つの花」

II 学習指導要領上の位置付け

(1) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

【知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項ア】

(2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

【思考力、判断力、表現力等 C読むことエ】

(3) 言葉のもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

III 目 標

場面の移り変わりと叙述を結び付けることを通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。

(1) 言葉に着目すると、考えたことや思ったこと、場面の移り変わりが分かりやすくなることに気付く。

【知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項ア】

(2) 登場人物の気持ちの変化、情景などについて、場面の移り変わりと結び付けて想像することができる。

【思考力、判断力、表現力等 C読むことエ】

(3) 言葉のもつよさに気付き、思いや考えを伝え合おうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／8）

1 ねらい 学習の見通しをもたせることで、作品への関心を高め、学習課題への意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動（分） ○：留意点 点線囲：評価 ☆：振り返りの子供の意識

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。（15分）

○教師の範読を聞き、場面は大きく二つに分かれていることを確認する。

○どのような時代のお話なのか、想像しながら範読を聞くよう促す。

○既習事項（登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わり）を確認し、本単元では、登場人物の気持ちを場面の移り変わりと結び付けて想像する学習を行うことを知らせる。

単元の課題 作者は、なぜ「一つの花」という題名にしたのか、作者の思いを読み取ろう。

2 本時のめあてをつかむ。（2分）

めあて 単元の課題を解決するために、これからどのようなことに着目して読み進めていくとよいか考えよう。

3 学習の見通しをもつ。（25分）

○既習の物語文を想起させ、どのようなことに着目して学習してきたのか思い出させる。

○個人で考えさせた後に、グループや学級で方法を共有し、焦点化を図る。

☆場面が変わっているところを探すのに、言葉を比べるのはどうかな。

☆登場人物の気持ちは書いてないけれど、行動に着目すれば分かりそう。

課題を解決するための読み方を知り、課題への意欲をもっている。

<ノート・発言(3)>

4 本時のまとめ・振り返りをする。（3分）

○板書を見ながら、自分の言葉でまとめるよう促す。

☆場面の移り変わりを考えて、言葉を比べたり、登場人物の気持ちを読み取ったりする活動を通して、学習課題を解決していくのが楽しみだな。

V 本時の展開（6／8）

- ねらい 戦後場面にお父さんはいないけれども、お父さんの存在（象徴）を表す言葉を探す活動を通して、お父さんの残した思いを捉えることができるようにする。
- 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（7分） ○前時までの学習を振り返らせ、本時でも登場人物の気持ちに焦点を当てることを確認させる。 ○場面が移り変わっていること、お父さんがいないことを確認させる。			
めあて お父さんを表す言葉を探して、お父さんが残したものは何か、文中の表現から想像しよう。			
2 課題を追究するために個で考える。（15分） ○お父さんを表す言葉を探し、なぜそう思ったか理由を書く際に、「白いぼうし」で学習した、「証拠（根拠）見付け」を想起するように促す。 ○根拠となる本文に線を引くよう助言する。 ○お父さんの残した、ゆみ子への思いを書く際に、残したものは何かを具体的に考えさせ、それに込められた思いを考えるように促す。			
3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る（18分） ○グループで、考えに根拠があるか確認しながら、互いの発表を聞くように助言する。 ○お父さんを表しているものに込められた願いや思いが書かれているか、確認するよう促す。 ○友達の考えの根拠は、自分と「同じ」か「違う」かを確認し、根拠の違いはどこかが分かるように、発表を聞きながら教科書に線を引くように促す。			
お父さんを表しているのはコスモスで、花に込められた平和への願いであることを理解している。 <ノート・発言（2）>			
4 本時のまとめ・振り返りをする。（5分） ○活動2と3を自分の言葉でまとめるように促す。 ☆コスモスはお父さんを表していて、ゆみ子が平和に暮らしてほしいと願っていたと分かった。			

V 本時の展開（8／8）

1 ねらい 単元で学習したことを振り返り、それをほかの物語文で生かせることを確認する。

2 展開

学習活動（分） ○：留意点 点線囲：評価 ☆：振り返りの子供の意識

1 本時のめあてをつかむ。（2分）

めあて 単元で学習したことを、図書館にある本の読みに生かそう。

2 単元で学んだことを確認する。（5分）

- ノートを読み返し、どのようなことに注意して読むと題名に込められた作者の思いを読み取れたのか、全体で共有させる。
- キーワードとなる言葉（場面の移り変わり・結び付ける・根拠・比べる・言葉・登場人物の気持ち）を発表させ全体で確認させる。

3 学んだことを一般化して理解する。（30分）

- 「くまとやまねこ 作：湯本香樹実」を読み聞かせし、言葉や情景を比べ「場面の移り変わりと結び付けて登場人物の気持ちの変化」を読み取らせる。
- 「くまとやまねこ」の「登場人物の気持ちの変化」を発表させ、学んだことがほかの教材でも活用できることを確認させる。
- 「くまとやまねこ」の題名に込められた作者の思いを全体で共有させる。

4 単元全体の振り返りをする。（8分）

- 全体で共有したことや、キーワードを使って、単元全体で学んだことを、自分なりの言葉でまとめられるように助言する。

☆物語を読むときに、場面の移り変わりと登場人物の心情を結び付けて想像すると、より分かりやすくなるのだな。

☆場面が変わっても、作品を通して変わらない思いもあるのだな。

☆ほかの本でも、同じ読み方ができるか、もっと挑戦してみたいな。

学んだことを自分なりに理解し、ほかの教科や教材でも学んだことを生かして読もう
としている。 <ノート・発言（3）>

<p>目標</p>	<p>場面の移り変わりと叙述を結び付けることを通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。</p> <p>(1) 言葉に着目すると、考えたことや思ったこと、場面の移り変わりが分かりやすくなることに気付くこと。 【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項ア】</p> <p>(2) 登場人物の気持ちの変化、情景などについて、場面の移り変わり結び付けて想像すること。 【思考力、判断力、表現力等 C読むことエ】</p> <p>(3) 言葉のもつよさに気付き、思いや考えを伝え合おうとすること。 【学びに向かう力、人間性等】</p>		
<p>評価規準</p>	<p>(1) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)】</p> <p>(2) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちを叙述を基に想像して読むことができる。 【C読むことウ】</p> <p>(3) 言葉のもつよさに気付き、進んで思いや考えを伝え合おうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】</p>		
<p>過程</p>	<p>時間</p> <p>○ねらい めあて</p>	<p>☆振り返り(意識)</p>	<p>◇評価項目 〈方法(観点)〉</p>
<p>つかむ</p>	<p>1</p> <p>○学習の見通しをもたせることで、作品への関心を高め、学習課題への意欲をもてるようにする。</p> <div data-bbox="311 880 890 982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作者は、なぜ「一つの花」という題名にしたのか、作者の思いを読み取ろう。</p> </div> <div data-bbox="311 1009 890 1136" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>単元の課題を解決するために、これからどのようなことに着目して読み進めていくとよいか考えよう。</p> </div>	<p>☆場面の移り変わりに着目するとよいかも。</p> <p>☆登場人物の気持ちを場面と結び付けて考えるのはどうか。</p> <p>☆言葉を比べるのがおもしろそう。</p>	<p>◇課題を解決するための読み方を知り、課題への意欲をもっている。</p> <p>〈ノート・発言(3)〉</p>
<p>追究する</p>	<p>2</p> <p>○戦中や戦後の場面の移り変わりと言言葉に着目して、変わったこと・変わらなかったことを比べる活動を通して、作品の背景を捉えることができるようにする。</p> <div data-bbox="311 1319 890 1446" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>場面の移り変わりと言言葉に着目して、変わったこと・変わらなかったことを読み取ろう。</p> </div> <p>2</p> <p>○登場人物の言動に着目させ、その意味を叙述に沿って考えさせる活動を通して、家族の思いやこれからの時代への願いを捉えることができるようにする。</p> <div data-bbox="311 1594 890 1695" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>登場人物の気持ちを、文中の表現から想像しよう。</p> </div> <p>1</p> <p>○戦後場面にお父さんはいないけれども、お父さんの存在(象徴)を表す言葉を探す活動を通して、お父さんの残した思いを捉えることができるようにする。</p> <div data-bbox="311 1942 890 2068" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お父さんを表す言葉を探して、お父さんが残したものは何か、文中の表現から想像しよう。</p> </div>	<p>☆一輪のコスモスがいっぱいのコスモスに変わった。</p> <p>☆爆弾の音がミシンの音に変わった。</p> <p>☆ゆみ子が大きくなった。</p> <p>☆お父さんがいなくなった。</p> <p>☆いもやかぼちゃが肉や魚に変わった。</p> <p>☆お父さんが、めちゃくちゃに高い高いする場面では、戦争への怒りの気持ちもあると思う。</p> <p>☆お母さんが、おにぎりを全部あげた場面では、二度とお父さんに会えないかもしれないから、笑顔で別れて、その笑顔をお父さんに思い出してほしいという、気持ちがあると思う。</p> <p>☆お父さんの象徴は、たくさんのコスモスだ。</p> <p>☆お父さんが、最後に渡した一つの花に、これからの時代が平和になってほしいという願いを込めていたと思う。</p>	<p>◇言葉を比べ、戦中から戦後へ場面が移り変わっていることを理解している。</p> <p>〈ワークシート(1)〉</p> <p>◇叙述に即して、家族それぞれの思いや戦争に対する思いを読み取っている。</p> <p>〈ノート・発言(2)〉</p> <p>◇お父さんを表しているのはコスモスで、花に込められた平和への願いであることを理解している。</p> <p>〈ノート・発言(2)〉</p>
<p>まとめ</p>	<p>1</p> <p>○学習全体を振り返り、学習課題に対して、自分の考えをもてるようにする。</p> <div data-bbox="311 2197 890 2299" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作者は、なぜ「一つの花」という題名にしたのか、自分の考えを書こう。</p> </div> <p>1</p> <p>○単元で学習したことを振り返り、それをほかの物語文で生かせることを確認する。</p> <div data-bbox="311 2417 890 2518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>単元で学習したことを、図書館にある本の読みに生かそう。</p> </div>	<p>☆ゆみ子の未来が平和であるようにと願って渡した一輪の花だから。</p> <p>☆題名には場面が移り変わっても、変わらない「平和」への思いが込められていると思う。</p> <p>☆場面が変わっても、作品を通して変わらない思いもあるんだ。</p> <p>☆ほかの本でも、同じ読み方ができるか、挑戦してみたいな。</p>	<p>◇お父さんの願いと合わせて、「一つの花」という言葉に込められた作者の思いを想像することができる。</p> <p>〈ノート・発言(2)〉</p> <p>◇学んだことを自分なりに理解し、ほかの教科や教材でも学んだことを生かして読もうとしている。</p> <p>〈ノート・発言(3)〉</p>